



初期研修から専門研修へ

広島赤十字・原爆病院 消化器内科 小浦 裕子

広島赤十字・原爆病院 消化器内科専攻医1年目の小浦裕子と申します。広島生まれて中学高校はAICJ中学高等学校、大学は広島大学出身です。広島の街や文化が好きで、お世話になった先生、周りの方に医療という形で貢献したいと思ったのがきっかけで医師を志しました。趣味は音楽鑑賞で、忙しい日々の中でも音楽に触れる時間が心の癒やしとなり、仕事への活力にもつながっています。ショッピングも好きで、今年の3月にできた駅の商業施設へ足を運ぶのも楽しみにしていました。広島がますます発展していく姿を見るとうれしくなります。

私は令和5年に広島大学を卒業後、国立病院機構呉医療センターで初期研修を行いました。呉医療センターでは多くの症例を経験しながら、患者との向き合い方や医師としての基礎を学びました。魅力的な先生方や診療科、興味を引かれる分野が多く、その中で自分が進みたい診療科について悩む日々が続きましたが、消化器疾患に魅力を感じるようになり、消化器内科への興味が徐々に深まりました。医師としての志望動機は、地元広島の医療に貢献したいという思いからでしたが、特に消化器内科では患者の層も幅広く、治療効果が目に見えて実感できる場面も多いことや全身管理を行える点に魅力を感じ、この道を選びました。また内視鏡という技術的な側面にも興味を持ち、将来的に自分自身が手技を通じて患者に貢献できる点にも大きな

やりがいを感じています。

4月より広島赤十字・原爆病院で勤務しておりますが、当院では消化器疾患全般に加え、内視鏡検査や治療、肝疾患など幅広い分野で専門的な経験を積むことができます。また、多くの科と連携しながら診療にあたる機会も多く、新しい症例や患者との出会いを通じて毎日新鮮な学びを得ています。消化器内科は非常に奥深く、多岐にわたる領域であるため、未熟な私には難しい場面も多々ありますが、温かく熱心な先生方やスタッフの皆さまのご指導の下、少しずつ成長を実感しています。

現在は消化器内科医として1年目ですが、その領域は想像以上に奥深く、多くの知識と技術が求められることを痛感しています。時には悔しい思いや困難な場面もありますが、一つ一つ乗り越えることで得られる達成感や患者の回復を間近で見られることが私自身の励みとなっています。時には厳しい決断を迫られることも多いとは思いますが、自分自身が成長することにより良い医療を提供できるようになること、その結果として患者が元気になっていく姿を見ることがこの仕事の最大の魅力だと感じています。

これからも学び続け、消化器内科医として成長できるよう努力してまいります。未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

広島県最低賃金が変わりました

(令和6年10月1日から)

☆ 時間額 1,020円

特定の産業で働く労働者については、広島県最低賃金よりも金額の高い特定(産業別)最低賃金が適用される場合があります。

お問い合わせ先

広島労働局労働基準部賃金室(TEL:082-221-9244) または最寄りの労働基準監督署へ
広島労働局HP: <https://jsite.mhlw.go.jp/hiroshima-roudoukyoku/>